

トランポリン競技部

まさに空中での
スポーツです

トランポリンという競技は、ご承知の通り跳ねるスポーツです。ただ、一般の人が想像するような簡単なものではありません。うまい人になると、その高さは7m~8mにもなり、おそらく何回回転して何回捻っているのかは分からないでしょう。そのような技を10回合わせて行う競技なのです。まさに空中でのスポーツ、一度は飛んでみたいという人間の夢を叶えてくれるスポーツです。我がトランポリン競技部に入ってくる部員は全員が初心者、



初めは真っ直ぐ跳ぶことさえまななかつたものばかりです。それが始めて2、3ヶ月で宙返りをし、上級生になってくると2回宙返りまで練習次第ではできるようになるのです。現在、トランポリン競技の人口というのはそれほど多くなく、それほどメジャーというわけでもありませんが、記憶に新しいシドニーオリンピックでは正式種目にもなり世界でも徐々に注目され始

めており、日本国内でもその競技人口は年々増加の傾向にある競技のひとつになっています。

我が部は1年間に4つの大会があり、そこでの上位入賞を果たすために日々練習に励んでいます。すべての大会がもちろん大切なものではあるのですが、その中でやはり大学生として一番重要であるのが、夏に行われる全日本インカレです。毎年全国の都道府県を回りながら行われているこの大会は、今年度は石川県で行われました。トランポリン競技というのは、その難易度によってクラスに分かれているもので、この大会ではA、B、Cの三つに分かれて行われます。いずれにしても、どのクラスも入賞する事は非常に困難を要するという事。その中で、団体戦優勝、シンクロナイズドBクラス3位、6位、個人Bクラス準優勝という結果を残す

留学 体験記

ニュージーランドのオタゴ大学は、小樽商科大学と1992年11月21日に姉妹提携を結んだ、一番はじめての大学です。



右から2番目が筆者

中川 彩子さん 企業法学科4年
2002.2~2002.11
ニュージーランド(オタゴ大学)へ留学

ニュージーランド南島のダニーデンにあるオタゴ大学は、「大きな公園のある小さな町」といった印象で、中心に川の流れる広い敷地に、スコットランド風の石造りの建物と近代的なガラス張りの建物が調和している、そんな大学でした。

私の住んでいた寮は、300人規模の大きな寮で、キィウィ(ニュージーランド人のことを皆こう呼んでいまし

た)はもちろんのこと、留学生もたくさん暮らしていました。寮では十分の食事の他、コンピューター室、ランドリー室、ピリヤード、テニスコート、自習室など設備が充実していたし、場所も非常に便利な所にあり、本当に良い環境だったと思います。

授業の中で、チュートリアルという講義は、10~20名の学生と1人のチューターで行われ、講義の内容について議論をしながら理解を深めていくといったものでした。チュートリアルでは自分の力不足、不甲斐なさを知り、部屋に帰ってから泣いたことすらありました。しかし、チューターが常に私を気にかけて下さっていたので、わからないながらも不安は徐々に消えていきましたし、スチューデント・ラーニング・センターへ行ったのをきっかけに、それまで自分が授業を理解できないのを全て英語のせいにしていたのですが、それは甘えだということに気が付きました。大学の勉強は誰にとっても難しいもので、専門用語の中にはニュージーランド人学生ですら知らないものもあるのだから、それは彼らと同じように学んでいかなければならないのだ

と思うようになりました。それに気付いたのは本当に留学生生活も終わり頃だったのですが、そのことによってますます学習意欲が増していきました。

勉強や生活の面で、先生方や寮の友達以外にもたくさんの人達に支えてもらいました。まず、オタゴ大学にはメンター制度があり、希望すれば留学生にはスチューデントメンターが与えられ、ニュージーランドの生活に慣れるようにサポートしてもらえます。メンターによって差はあるようですが、私の場合は留学前からメールのやり取りをしたり、オタゴに行ってからもエッセイの文法を見てもらったりしました。その他には、先生に日本語を専攻しているキィウィの大学院生を紹介していただき、交換学習もしました。商大に去年留学していた友達にも、授業ガイダンスのときに一緒に行ってもらったり、ドライブに連れて行ってもらうなどしてもらっていましたが、一緒に商大から留学していた友達とも常に連絡を取り合っており、お互いを励まし合っていました。

余暇については、まとまった休みにはクィーンズタウンでスキーをしたり、